

## トピックス

## 津波越流に強い盛土構造の報道公開実験を行いました

鉄道総研は、2014年9月2日に、1/10スケールモデルを用いた鉄道盛土の津波越流模型実験を行い、大地震に対する耐震性に加えて、長時間の津波越流（津波が盛土を越えて流れる現象）にも耐える新しい補強土構造物（以下、「新構造」）を報道公開しました。

鉄道総研では、2011年12月に「鉄道の震災復旧・復興に向けた技術提案」を取りまとめ、これに基づいて東北地方太平洋沖地震の被災から、鉄道の震災復旧・復興を支援してまいりました。一方、今回の津波被害の経験から、巨大な津波が防潮堤を越えてきた場合に、鉄道や道路などの盛土構造が2番堤として地域の被害を低減する役割が期待されています。このような背景から、津波到達が予想される地域の鉄道盛土には、津波に対する耐性を考慮する必要が生じてきました。

鉄道総研では、現地調査や波浪模型実験などによって、従来型の盛土が津波越流によって破壊するプロセスを明らかにし、その結果を踏まえて、「RRR工法」などのジオテキスタイル補強土構造物を発展させて、耐震性に加えて長時間の津波越流にも耐える新構造を提案いたしました。今

後は「新構造」を「RRR工法」のバリエーションの一つとするため、設計法の確立を進めていきます。

なお、本研究においては、東京理科大学、(独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所、(株)複合技術研究所から技術的な助言・指導を受けています。



津波越流模型実験の報道公開の様子